

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任
水野 喜代治

あけましておめでとうございます！「想い」という雪だるま

2022年がスタートしました。1月1日(土)に書き初めをしました。私事ですが書道教室に通ってから、毎年、書初めをしています。新しい年の目標や願いを一字に込めて筆を走らせます。まだまだ、1級で思うように書けませんが楽しんで書いています。

今年は、「想」という字を書いてみました。おもうという字は「思う」と「想う」の二つの字があります。「思う」は、自分が心の中で考えたことを表します。私はこう思う、私はこう考えるということです。それに対して、「想う」は複数の人で願う気持ちや人の中にある特別な気持ちが含まれた気持ちを表しています。思いと想いではニュアンスが少し違います。



あと三か月で1学年が終了します。3年生も卒業して巣立っていきます。ドキドキした気持ちでスタートした中学校1年生の生活もピリオドを打つことになります。縁があって、一緒になった今のクラスも解体して2年生へと羽ばたいていくのです。今日から、この三か月は今までの数か月とは異なりいろいろなことに心を留めて生活して欲しいと思います。一緒に生活してきた友達のことや「協力」という目標のもと取り組んできた1学年の集団のこと、担任の先生との繋がりなど大切にしたいです。そのようなことを大切に一人一人の「想い」がこの学年の魂だと思っています。

優しさに勝るものはないと思います。人間のもっとも人間らしいものは、「優しさ」だと思います。人は、さまざまな経験を通して、心に優しさを身につけていきます。雪だるまを作るときに雪のボールを転がすたびに大きくなるように、嬉しいこと、辛いこと、苦しいこと、悲しいことを経験するたびに優しさの雪だるまは大きくなります。雪だるまは、やがて溶けてしまいますが、優しさの雪だるまは溶けることはなく、一人一人の心の中に潤いをもたらします。そして、周りの人の悲しみを溶かしてくれます。

「想い」を大切に、黄色学年で大きな大きな優しさの雪だるまを作り続けてほしいと思います。君たちの雪だるまが私は大好きだから。